

安曇野市農業農村振興計画推進委員会(第5回)会議概要

1	審議会名	令和3年度 第5回安曇野市農業農村振興計画推進委員会
2	日	時 令和3年10月28日 午後1時30分から午後3時20分まで
3	会	場 安曇野市役所本庁舎 4階大会議室
4	出席者(委員)	中島完二委員長、岡村紀子副委員長、細田直稔委員、福嶋子真委員、東稔丈委員、久保田敏彦委員、中田平男委員、津村孝夫委員、藤原光弘委員、松本遊穂委員、丸山昌則委員、小原太郎委員、田中浩二委員、平田米子委員、小林みずき委員、岡村公夫委員、古幡栄一委員(17人/23人中)
5	出席者(オブザーバー)	農林水産省関東農政局長野県拠点 地方参事官室 総括農政推進官 丸山常行氏 主任農政推進官 関妙子氏 県松本農業農村支援センター技術経営普及課 企画幹兼課長 中澤徹守氏 農業農村振興課 課長補佐兼農村振興係長 小林佳昭氏 技術経営普及課 課長補佐兼地域第二係長 百瀬義男氏 技術経営普及課 地域第二係 主査 松崎あけ美氏
6	市側出席者	太田寛市長、赤澤農林部長、山崎農政課長、小林農政課長補佐兼農業政策係長、布山生産振興担当係長、中澤生産振興担当係長、中村農村振興担当係長、小林農村振興担当係長、農業政策係高野副主幹、農業政策係鈴木主査、水谷市農業再生協議会事務局次長、佐藤耕地林務課長、高木農業委員会事務局次長、藤原農業委員会事務局次長
7	その他出席者(計画策定コンサル)	特定非営利活動法人 SCOP 跡部嵩幸研究員
8	公開・非公開の別	公開
9	傍聴人	2人 記者 1人
10	会議概要作成年月日	令和3年11月10日

協 議 事 項 等

1	会議の概要
	(1) 開会(岡村副委員長)
	(2) あいさつ(中島委員長)
	(3) 協議事項
	ア 第3次安曇野市農業・農村振興基本計画(素案)について
	イ 答申方法と今後のスケジュールについて
	ウ 同計画策定に携わって(感想・期待すること)
	(4) 中間答申
	(5) 第3次安曇野市農業・農村振興基本計画(素案)に係る所見
	(6) その他
	(7) 閉会(岡村副委員長)
2	協議事項
	(1) 第3次安曇野市農業・農村振興基本計画(素案)について
	<b>【主な意見・質問等】なし</b>
	(2) 答申方法と今後のスケジュールについて
	事務局：本日、素案を市長へ中間答申を行う。その後、庁内調整を経て、12月17日から、1か月間のパブコメを実施する。2月上旬に、計画書案をとりまとめ、委員長から市長へ答申を行う、という流れを想定している。

パブコメで出された意見・修正点等については改めて推進委員会は開催せず委員長に一任し、その反映は完成冊子にて報告させていただきたい。

【主な意見・質問等】なし

【結論】挙手多数により、承認

ウ 同計画策定に携わって（感想・期待すること）

【主な意見・質問等】

委員：農作業の繁忙期で欠席せざるを得ない回があった。2-1-2 農業者の確保・育成に関係し、農業法人として社員を育てているものの、労働力が足りず自分でも作業しなければ手がまわらない状況がある。農業者の確保・育成は、できる限り早く進める必要がある。

土地利用型的水稲農家にとっては、特に令和3年の米価の下落は痛手。稼げないと設備投資ができないため、効率が落ち新しい面積を受けられない。持続的に「稼ぐ」＝「儲かる」ことが土地や仕事を守ることにつながる。人も必要だが設備も同様に必要となる。そのような意味で、1-1-1③設備・機械の導入支援も重要である。

また、1-2-2 技術の研究と導入がコスト削減につながり、安定した農作物を得られることも重要である。

委員：この推進委員会は、様々な立場の人と意見を交わすことができ貴重な時間になった。目指すべき姿は、自分の考える理想に近いものになっている。ここからがスタート。安曇野市民一人一人が、共通の認識・ゴールを持ち、日々の行動を変化させていくことが求められる。

やはり労働力は課題。農業に興味・関心を持つ人を増やすことで地域の農業を守る基盤づくりをしていくことが重要である。

委員：大変勉強になった。重点プロジェクトに小規模農家を応援する要素が含まれていて素晴らしい。一つ一つの施策もそれぞれの文章が力強く、これが推進できれば、素晴らしい地域になると感じる。

さらに良くするために、「目標の達成と施策がつながっているか」ということを確認すると良いと思う。

委員：中山間地域を代表する立場で参加している。少子高齢化が進み、5～6年後は今よりもさらに厳しくなると考えている。今の担い手は、昭和20年前後生まれ、70歳前後がメイン。今後も、中山間地域に対しての交付金を使いながら、農地を維持していくためには事務の簡素化も必要な状況である。

委員：1-3-3 安曇野ブランドの育成は言葉と並べるだけでなく、「ブランド化」について、どうすれば実現できるのか、主体は誰なのか等、より深く考えていく必要がある。農家・農協が一緒になって取り組み、行政のバックアップを受けるといった体制が求められるのではないかと。また、高齢者にも配慮した言葉使いをお願いしたい。

委員：3-1-2 農家民宿を営んでいるのは、ほとんどが一般の農家。とても稼げる状態ではないが、子ども達の人間形成への寄与という点で、意義のある活動だと思っている。一方で、稼げるということが継続につながっていくということがあると思う。国の政策に翻弄されているような部分もあるため、国に意見を言え、状況を改善していけるような市になることを期待している。

- 委員：直売所を代表する立場で参加している。30年ほど直売所を運営しているもののブランド化はできていない。加えて出荷量が減り、品質も悪化してきていると感じる。後継者の育成や農作物の質の確保を進めていくことが求められる。また、直売所同士で価格競争している状況があり、農家や農業のための施設という視点がずれてしまうことも課題である。循環型の農業の実現についても、市で真剣に施策を実施していく必要があると考える。
- 委員：この計画を実現して欲しい。  
1-2-2 技術の研究と導入、1-3-1④新品種の導入について、安曇野のわさびは全国的に有名だが、研究機関が県にも市にもない。ライバル産地である静岡や島根にはあるため、是非行政のバックアップがほしいと感じている。またPRについては、フランスでも評価されていると感じている。引き続き効果的な支援をお願いしたい。
- 委員：JAでも新たな計画策定に取り組んでおり、その内容が安曇野市の施策にも反映されている。その中で、生産力が落ちるとブランド力低下につながるため、担い手の確保に危機意識を持っている。現状、水稻が低迷し4割が減反、りんごの生産量はかつての半分に減り、地域の生産力は落ちている。  
一方で、ブランド力を保つには、持続可能な農業を成立させるために高く売ること重要。今後、有機、減農薬を進めていくにはコストを補うため、消費者が、その価値に共感して選んでくれる仕組みの中で、ブランドを維持していくことが求められる。  
JAとしては、独断で何かするのではなく、地球環境を配慮する中での新たな取組みを考えながら、農家の収入アップのために施策を実施していきたいと考えている。
- 委員：推進委員会なので、計画を推進していくことも私達の役割である。JAとしても個人としてもコミットしていきたい。
- 委員：地域の農業を多様な立場の方々と考える場に参加できたことに感謝している。計画の内容も素晴らしく、多様な農業者がプレイヤーとして活躍することのできる中身が詰まっている。  
計画を行政だけのものにせず、活かしていくためには、住民・地域を巻き込んでいくことが求められる。重要なのは当事者意識とコミュニケーション。推進委員として、住民・地域とのコミュニケーション方法を模索しながら、計画の実現にも協力したい。多様な立場の推進委員が連携して、点と点を結びながら、線・面をつくっていくことが重要である。
- 委員：参加する中で知ることが大切と感じた。「稼ぐ」「守る」「農と生きる」を広く住民に知ってもらい、生産者と消費者、行政が互いに支え合い知恵を出し合うことが大切と感じた。
- 委員：年齢にかかわらず率直な意見を述べ合える場が素晴らしいと感じた。  
アンケートによって、現状の満足度が高い一方、今後について不安を抱えているという農家の実情がわかった。施策を知っていただき不安解消に取り組むことが重要。ヒアリングでは、若手が真摯に農業と向き合っていることが印象的であった。「引継いでいく」ことを促進していくことが重要。  
また、対外的に見て安曇野ブランドはかなり知名度があると感じている。安曇

野産農産物の発信を強化していくことが求められる。

委員：稲作は収益が上がらず、なかには年金を投入して農地を維持している人もいる。「田園産業都市安曇野」を掲げているので、田園風景を守ることが求められるが、これには農業を産業として成立させることが必要だと思う。

委員：食農教育として、6年前から子どもが大人の力を借りずにお弁当を作る「手作り弁当の日」を実践している。現在は、市内17校に広がっており、多くの保護者、生徒に好評である。「面倒臭いと思ったがやってみると楽しい、またやりたくなった」という感想が多く、食材である野菜や米を農家の方々がどんな気持ちで作ったのか、という事を考えるいい機会と考えている。

農家との交流活動がしやすいのは、安曇野の良いところである。実際に農業を体験する機会を設けることで、子どもたちの興味関心を引き出し、将来の後継者づくりに寄与できると考えている。また、都会の子どもと農家との交流により、農業の良さを伝えることができる。知ることは農業の活性化の足掛かりになると思う。

委員：地域の女性リーダーを目指す集まりで活動をしている。その中で、稼げないと会議に出てこられない現実がある。「稼ぐ」を重点的に進めていくことが必要。また、安曇野の環境を守るために住民を巻き込んでいくことも求められる。例えば、移住者から「草が生えていて景観が悪い。」「除草剤をまかないで欲しい」といった意見が出されるが、景観を守るために除草剤を使わざるを得ない実情があることも知ってもらう必要がある。

委員：委員の皆様には積極的・建設的に意見を出してもらい感謝している。安曇野市の農業は大変厳しい。担い手不足、高齢化、後継者不足による遊休地増加、異常気象、様々な課題がある中で、計画に基づく活発な活動により解決できれば良いと考えている。また、住民にわかってもらう情報発信も重要である。

### 3 中間答申

太田市長：これまで熱心な協議が行われたと聞いている。私も様々な公約をした中で、農業振興には重きをおいており、特に「興す」という視点で、例えば、学校給食や市内飲食店・宿泊施設での地産地消、若手農業後継者づくり、半農半Xの新規参入促進、環境保全型農業の推進等をうたってきた。これから、中間答申を読ませていただくが、基本的な方向性は同じであると聞いており、嬉しく思っている。

今後は、庁議や市議会にて説明、パブリックコメントの実施をし、来年2月には正案としていく。皆さまにはそれぞれの立場で、ご尽力いただきありがたいと感じている。

### 4 第3次安曇野市農業・農村振興基本計画（素案）に係る所見

- (1) 農林水産省関東農政局長野県拠点 地方参事官室 総括農政推進官 丸山常行氏  
地球温暖化への対応については、SDGs、世界的な流れもあり、重要かつ注目されている。農林水産省としても「みどりの食料システム戦略」を策定し、施策を進めている。

2-5-1①有機農業については、農家の頑張りだけで面積を拡大していくのは難しい。関係者が連携してサプライチェーンを組み立てていくことが必要であるため、国としても、各種支援事業や消費者の購買行動の変化を促すことで後押ししていきたい。市には「みどりの食料システム戦略」と方向性を合わせた施策の展開をお願いしたい。また、本日意見として出された、国民一人一人への周知を実現できるように対応していきたい。

(2) 県松本農業農村支援センター技術経営普及課 企画幹兼課長 中澤徹守氏

県の技術普及センターの立場から所見を言わせていただく。まず、計画が将来のあるべきイメージに向かって進むという組み立てになっているところが素晴らしいと思っている。

県として支援できるのは、①法的規制・支援②財政的支援（各種補助事業）③人的支援（技術指導、担い手育成、経営指導）だと思っている。

③の人的支援の観点では、担い手育成が最重要なのはどの機関も同じだと思う。「稼ぐ」においても「守る」においても重要である。中でも、特に難しいのは集団的な担い手育成（1-2-1）である。担い手育成には、後継者をつくる/外部から人を呼んでくるという2つのアプローチがある。

外部からのアプローチについて、県は里親制度を全国に先駆けてH17に施策化したのが、現在は優秀な担い手を全国の市町村で奪い合う状況になっている。松本地域全体では、新規就農者数はH25がピークで減少している。必要なことはPRにつけるのではないかと。安曇野自身がブランドである。これをもっと身内にも外部にも発信することが重要。

「みどりの食料システム戦略」は、県も重要だと捉えている。これまで苦手としてきた分野だが、本腰を入れる必要がある。技術が不足しているため新しい知見を取り入れながら実施していきたいと考えている。

5 その他（部長より御礼挨拶）

6 閉会

以上